

### 3 研究の実際

#### (1) 水生生物による環境の評価と教材化

学校の周りで観察される川で、児童が徒歩で行ける範囲にある環境の明らかに異なる川を6地点選び(図2、福島市立瀬上小学校付近)、川の汚染と水生生物との関係を調査した。水生生物の採集は、すべて子供用の網か素手で行い、魚類を除く水生生物を採集した。採集した生物はすべて標本にして、図鑑で種名を同定した。

#### ① 調査した地点の様子

A-1、2地点：福島県教育センター付近のどぶ川で水深は浅く、夏場は悪臭がする。

B地点：瀬上の住宅地域を通る蛭川で、阿武隈川にそそぐ。悪臭がする。

C地点：生活雑排水などが摺上川にそそぎ込む所で水あかがある。

D地点：瀬上の商店街を流れる用水路で流れが速く、澄んでいる。

E地点：摺上川の幸橋付近で水の流れが速く、澄んでいる。

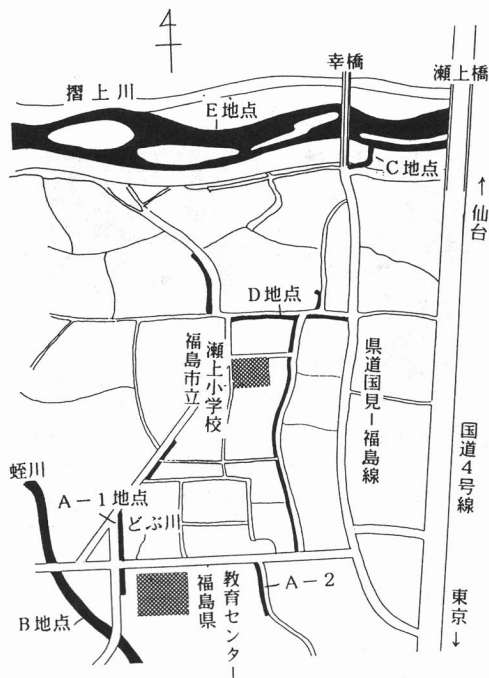


図2 調査地点略図(福島市瀬上地区)

#### ② 各地点で採集された水生生物と環境

##### A-1地点

ここは、いわゆる「どぶ」で近くの住宅の雑排水が絶えず流れ込み白く濁り、水底には大量のヘドロがたまっている。夏場は悪臭がし、汚水が移動しない(流れがほとんどない)。



写真2 A-1のどぶの様子

ここでは、セスジユスリカ幼虫やミズアブ幼虫が採集されたが、その他の生物は見られなかった。

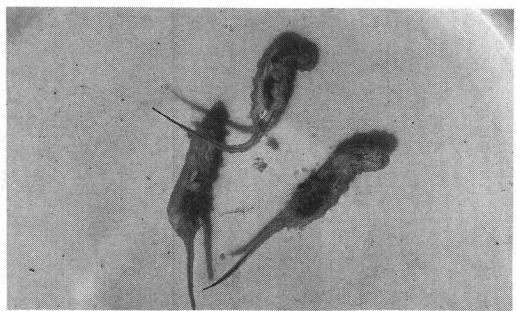


写真3 ミズアブ幼虫

##### A-2地点

ここも「どぶ」であるが、流れがあり水量も多い。家庭雑排水が絶えず流れ込んでおり、悪臭がする。

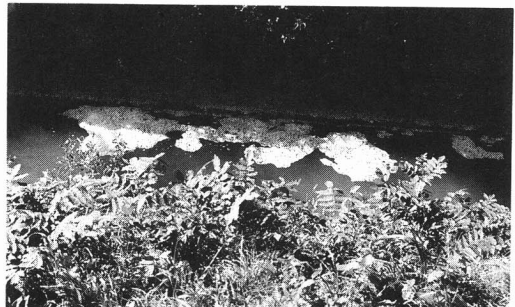


写真4 A-2地点の様子

ここでは、セスジユスリカ幼虫のみであった。